

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu 蒼穹

2023.9 Vol.152



開学・開設を祝して記念式典を挙行政(詳しくはP.02をご覧ください)

特集 地域の“知的資源”として更なる飛躍発展をめざす
松本大学松商短期大学部開学70周年
松本大学開学20周年・松本大学大学院開設10周年

..... P.02

- 「第2回三大学学生交流課題研究会議」が札幌で開催 P.05
- 株式会社岩岳リゾートと松本大学松商短期大学部が産学連携協定を締結 P.08
- 今年度より必修科目として開講した「短大教育と地域社会」 P.10
- 合同企業説明会に57社の企業が参加 P.12 ほか

地域の“知的資源”として 更なる飛躍発展をめざす

松本大学松商短期大学部開学70周年

松本大学開学20周年

松本大学大学院開設10周年

おかげさまで、松本大学松商短期大学部開学70周年、松本大学開学20周年、松本大学大学院開設10周年の年を迎えました。これまでの発展にご尽力を賜りました関係各位の皆さまには厚く御礼申し上げます。現在では、約2,300名の学生が在籍し、総合経営学部、人間健康学部、教育学部、短期大学部、大学院を擁する「総合大学」として、多岐にわたる分野で活躍する人材を輩出しています。松本大学松商短期大学部は、古くから「就職の松商」として知名度は広範に及び、卒業生は県内を中心に企業の皆様から高い評価をいただいております。また、松本大学は開学当初より、「地域立大学」として地域社会の発展や活性化に寄与し、松本大学大学院は、より高度な専門性を有する人材養成に努めています。本学の基本理念である「地域貢献」を柱に、地域の“知的資源”としてその価値を積極的に発揮し、独自色と話題性に富む高等教育機関として更なる飛躍発展をめざしてまいります。



新村移転後の1号館



松本大学開学時の校舎



松本大学一期生学位記授与式

開学・開設を祝して記念式典・パーティーを開催

9月24日、周年の節目を祝う記念式典を本学第一体育館で執り行いました。当日は、学生・学園関係者を含め約400名の方にご出席いただき、丸山律夫理事長の式辞では「長い歴史と伝統を基盤として、高等教育機関と中等教育機関を併せ持つ学校法人としての強みを活かし、皆様のご期待に沿えるように、一層の努力を続ける」と述べ、続いて菅谷昭学長は「式典を新たな起点とし、建学精神である「自主独立」の下、今後も地域貢献を基本とするミッションをぶれることなく守り抜く」と決意を力強く表明しました。また周年を記念して、松本大学同窓会より教育拡充資金として500万円、松本大学後援会より施設拡充資金として500万円の目録を贈呈していただきました。記念式典および記念講演会に続いて、松本市ホテルブエナビスタにて記念パーティーを実施し、普段お話できない方々と交流を深めること



第一体育館で開かれた記念式典

ができ、大変盛況のうちに終了しました。

今後も大学を中心としたつながりを大切に、次の10年、20年先に向けて新たな道を切り拓いてまいります。式典の挙行に際しご協力をいただきました関係各位、地域の皆さまに御礼を申し上げます。



記念パーティーではアンサンブルsolaeが演奏し会を盛り上げました。

記念
講演

姜尚中氏による 記念講演を開催



記念式典に引き続き、政治学者で東京大学名誉教授の姜尚中氏を講師にお迎えし、「向こう岸から—地域から世界へ、世界から地域へ—」と題し、記念講演会を開催しました。姜氏は、鎮西学院学院長を務められていることから、大学についても触れられ、「大学は地域の大きな公共財で、地域社会に開かれていくことが重要である」と述べられました。一般参加者を含め約650名が聴講し、そのうち学生からも100名以上の参加があり、貴重な機会とすることができました。

お祝いメッセージ



歴史を刻んで

松本大学同窓会 小島 恵子 会長

母校は今年度、松本大学松商短期大学部(旧松商学園短期大学)開学70周年、松本大学開学20周年、松本大学大学院開設10周年と記念すべき年を迎え、同窓生一同心よりお祝い申し上げます。

当同窓会は、昭和28年4月松商学園短期大学設立から5年目の昭和33年4月に発足し、現会員数19,100名を越す大きな組織となりま

した。この65年間、初代小澤一彦会長は42年間、二代目横山公一会長は12年間、同窓会のトップとして、母校の教職員と協力して、現在の母校の発展に寄与していただきました。

歴史を刻む過程には、松商学園高等学校があり、松商学園短期大学があってこそ、現在の松本大学につながっているとの共通認識があり、私も3代目同窓会長としてそれを踏襲したいと思います。ただ、両同窓会会長の寄稿文を読みますと、以前のような協力体制がなくなってきているのではとの思いが綴られていることも事実です。

微力ながら同窓会は一丸となって母校に協力し、今年度、同窓会開催の各事業は、周年事業の冠を付け広報します。

卒業生からのメッセージ



松本大学松商短期大学部

中部電力株式会社 マネジメントサービス本部
企画室 ビジネスサポートセンター 勤務

竹花 博信 さん

商学科 2013年3月卒業

このたびは、松本大学松商短期大学部開学70周年おめでとうございます。私が松商短大に入学したのは2011年の4月で、東日本大震災の約1ヶ月後でした。入学当時の私は、震災の影響もあり「誰かの役に立てる人になりたいな」と、漠然とした思いを持っていましたが何もできずに日々を過ごしていました。そんな中、私は校友会の役員になるチャンスをいただき、どうせなら「校友会長」に立候補しました。さらに、周りの友人たちも様々な役員に立候補してくれて、当選後にはみんなで校友会活動を行うことができました。

初めて経験することばかりで意見が食い違うことも多くあり、誰かの役に立てたかわかりませんが、みんなで協力して様々なイベントを開催することができたのは私の自信にもなりました、大切な宝物です。今後の松商短大を支えていく学生のみなさんも、1人ひとりが大切な宝物を持ち、自信を持って社会に飛び立てるよう祈念いたしまして、お祝いのメッセージとさせていただきます。



松本大学

豊丘村立豊丘南小学校 勤務

本田 陽香 さん

教育学部学校教育学科 2021年3月卒業

このたびは、松本大学開学20周年おめでとうございます。私が松本大学を選んだ理由は、「地域貢献」という理念に魅力を感じたからです。「小学校の先生になりたい」という小さい頃からの夢を叶えるために、自分が生まれ育った自然豊かな長野県で学び、これからの将来を担う子どもたちの成長を支えたいという思いがありました。先輩がいない教育学部1期生でしたので、入学当初は不安なこともありましたが、丁寧に分かるまで教えてくださった先生方、励まし合い切磋琢磨した友人など、たくさんの人に支えていただき、無事、希望の職に就くことができました。

またサークルでは、松本大学アンサンブルsolaeの創立に携わったことも良い思い出です。今年の春、6年生を卒業させ、現在は、1年生31名の担任をしています。高学年担任から低学年担任になり、悩むこともありますが、日々子どもたちから学ばうことも多く勉強になっています。大学では、座学で学んだことを活かせる現場実習が1年次からあったり、ボランティアに参加したり、たくさんの子どもたちと関わる機会を多くいただけたことが、今の仕事に活きていると実感しています。

最後に、開学20周年という節目にこのような機会をいただけたことを嬉しく思います。松本大学の益々のご発展を祈念し、お祝いのメッセージとさせていただきます。



松本大学大学院

大阪大谷大学 薬学部薬学科 助教

吉田 瀬七 さん

大学院健康科学研究科 博士前期課程 2022年3月修了
人間健康学部健康栄養学科 2020年3月卒業

このたびは松本大学大学院健康科学研究科開設10周年おめでとうございます。入学当初、新型コロナウイルスが流行しており日々感染リスクや世間の動向に不安になりながら生活していたことを覚えています。そういった

慣れない環境のなか先生方のご尽力のおかげでたくさんの貴重な経験や実験をすることができとても感謝しています。現在は大学で助教として先生方の実習の補助や研究室で学生さんの卒業論文に関わる実験のお手伝いをしています。学生さんと関わる大変さは色々ありますが実験がうまくできるときや知識を学ぶうえで手助けができたときとてもやりがいを感じます。

修了して2年目になりますが現在も学会で先生とお会いしたり、共に研究した友人とも交流が続いており大学院に進学して本当に良かったと思います。大学院の今後益々のご発展を祈念し、お祝いのメッセージとさせていただきます。



野球部創部式・グラウンド開き(2002年3月)



松本大学竣工式(2002年3月)



1984年3月「蒼穹」創刊



大学院一期生による修士論文発表会(2013年2月)



新築の図書館(1992年建設)



人間健康学部開設時のトレーニング室(2007年4月)

数字で見る現在までの実績

敷地面積

14,905.91m² ▶ 98,761.40m²
(1977年新村移転時) 46年間で約7倍へ

卒業生・修了生数 (2023年3月末時点)

松本大学松商短期大学部 商学科	10,054名
※商業科卒業生含む	
経営情報学科	3,355名
松本大学 総合経営学部	
総合経営学科	1,946名
観光ホスピタリティ学科	1,307名
人間健康学部	
健康栄養学科	982名
スポーツ健康学科	1,268名
教育学部	
学校教育学科	209名
松本大学大学院	
健康科学研究科	50名

2023年度入学者における 県内高校出身者の割合

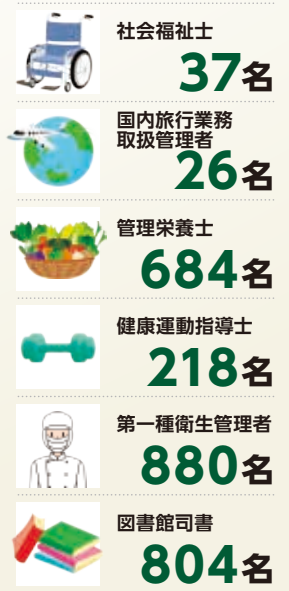
大学 86%
短期大学部 98%

教員免許状取得状況 (2023年3月末時点)

- ・小学校204名 ・特別支援学校78名
- ・養護教諭70名 ・栄養教諭119名
- 〈高等学校〉・情報34名 ・商業26名
- ・公民72名 ・地理歴史49名
- ・保健体育256名
- ・保健24名 ・英語11名
- 〈中学校〉・社会47名 ・保健体育244名
- ・保健23名 ・英語11名

主な資格取得状況

(2023年4月末時点)



異なる地域の学生たちによる交流と地域課題を研究 「第2回三大学学生交流課題研究会議」 が札幌で開催

学生課 係長 松島 大樹

9月6日～8日に、「第2回三大学学生交流課題研究会議」が札幌市で開催されました。この会議は北の札幌大学、南の鹿児島国際大学、そして日本の中央に位置する松本大学の学生が集結し、多様な価値観を共有し、学生が主体となって地域課題の解決策について議論するものです。同時に、異なる地域で暮らす学生間の交流も目指しています。本年度は3大学から約20名の学生が参加し、「食と観光」をテーマに開催されました。

まず、事前に調べておいた各県の食と観

光についてプレゼンが行われ、それぞれの地域の特色や課題が共有されました。その後、大学混合の4つの学生グループにわかれてのディスカッションとグループワークを実施しました。テーマを軸としてグループ毎に研究課題が設定され、①食文化の違いを発信してその町のファンを増やす、②食と観光の魅力を伝えるために大学生ができること、③観光で食を楽しむためには、食べ歩きかお店で楽しむか、④食をメインとした観光スタイルを持続化させるために何ができるかの、グループ毎に異



なる視点でアプローチされました。いずれの発表も、大学生らしい新鮮な発想と若い力の可能性を感じるものとなっており、会議だけに留まらず現実的な活動への展開さえも予感させる素晴らしい内容でした。

交流面においても、本会議開催前からLINEやチャットで繋がって活発な意見交換をするなど、現代の学生たちの強みが発揮されており、円滑な会議の助けとなりました。この会議は今後も毎年継続し、来年度は鹿児島国際大学で実施される予定です。



参加した学生の声をご紹介します。

観光ホスピタリティ学科4年
川上 夏希さん



第1回に参加したメンバーとして今回もありがたいことに参加する機会をいただきました。札幌をはじめ北海道の特色ある文化や、食、観光を現地の大学生に教えてもらい、楽しみながら3日間を終えることができました。私自身、北海道を訪れたのは初めてということもあり、ことあるごとに感動していました。特に興味深かったのは、ウポポイでアイヌ文化に触れたことです。アイヌの文化は、文字で残るよりも口承で伝わる文化と言われています。それは歌や民話などですが、多くの資料が展示されており、長く文化が伝えられてきたことがうかがえました。

また今回参加したメンバーとは、3日間で驚くほど親睦を深め、今後も繋がりを大切にしたいという気持ちが高まりました。私は4年生なので、あと半年後には卒業を迎えますが、今後の三大学学生交流課題研究会議で学生同士の交流を初めとした地域の交流が活発になればいいなと思っています。貴重な体験ありがとうございました。

学校教育学科3年
清水 大輔さん



今回のグループディスカッションで私たちの班は、「食と体験を通してまた来たいと思える観光のツアー」を考えました。このディスカッションを通して感じたことは、その地域に住んでいる人だからこそ知っている場所を知ることができるということです。現代はネットでいろいろな場所を調べることができますが、そこに住んでいる人だからこそ知っている場所があり、そのような場所を発信していくことが、観光客を呼びこむことにつながるのではないかと考えました。

今回は、食と観光に関して深く考えることができただけでなく、学生間の交流もできました。特にうれしかったことは、昨年参加をしていた札幌大学の学生と再会できたことです。普段、長野県だけで過ごしていると会うことのできない他校の学生とも、この交流の場を通して人間関係を広げることができると改めて感じました。また、三大学交流という場以外でも札幌大学や鹿児島国際大学の学生との交流を今後も続けていきたいと思っています。

多くの人々が心身共に健康に楽しめるよう

適切な指導ができるパラスポーツ指導員をめざして

スポーツ健康学科は2022年度カリキュラムにおいて、「パラスポーツ指導員（初級・中級）」資格の養成校として認定されました（蒼穹146号掲載）。これにより、資格取得に必要な単位をすべて修得し、日本パラスポーツ協会に申請することで本資格を取得することが可能になりました。本学科で取得可能な既存の資格に加えて本資格を取得することで、パラスポーツでの現場にとどまらず、本学科の柱である、健康づくり、地域スポーツ、教職等、各場面で指導の質が向上し、新たな可能性が広がります。ここでは、パラスポーツ指導員の資格取得にかかわる「パラスポーツ論」の実習の様子を一部ご紹介します。

スポーツ健康学科 専任講師 伊藤 真之助

資格取得のために必要な科目

- 心身と体の健康 ● 体育原理
- 安全・救急法(含実習) ● 発達発達論*
- 精神保健論* ● リハビリテーション概論
- トレーニング科学の理論と実際*
- スポーツカウンセリング* ● スポーツコーチング論*
- パラスポーツ論 ● パラスポーツ演習
- パラスポーツ実習* ● 看護学概論(セルフヘルスケア)
- グループワーク・トレーニング ● 健康管理論*
- スポーツと法* ● 地域社会とスポーツ*

*中級のみ科目

視覚障がい者の歩行体験

6月6日、視覚障がい者の体験授業を行いました。人間は視覚から80%以上の情報を得ているとされており、視覚に何らかの障がいを持つと様々な困難が想像できます。しかし、保有感覚を使用し適切な訓練を行うことで100%ではありませんが、障がいをカバーすることが可能です。実際に体験した学生は、パートナーの声や周りの騒音などによる「聴覚からの情報」や、壁や手すりなどを手で触り「触覚」の情報から現在の位置やこれから歩くべき方向を探っていました。普段、何気なく通っている道も視覚情報がないと、歩くことがとても難しく時間がかかることが実感できたと思います。



サッカーや卓球などのスポーツをされている視覚障がい者はたくさんいます。このようにスポーツは様々な能力を伸ばし、たくさんの方の気づきを与えてくれる存在でもあるということを学んでほしいと思います。

車いすの実走体験

6月13日は、車いす実走体験をしました。大学構内のスロープや段差、エレベーターはもちろん、大学周辺の歩道も走行してみました。学生たちは、普段何気なく歩いている時は気づかない、傾斜やでこぼこの道、細い道を通る難しさなどに四苦八苦しながらも、体験していました。次の日は腕が筋肉痛だったのではないのでしょうか。

私たちが「足」で行う歩行や走行を、車いす使用者は「車いす」で行います。そしてそれは手による駆動です。それがいかに大変なことなのか、そしてその車いすを使用したスポーツ競技がいかに高い



い身体能力が必要なのかを身をもって体験できたことかと思えます。今回の体験を活かし、今後も様々な興味や優しさにつなげていってほしいと思います。

競技用車いすでバスケットボールを体験

7月21日、講師として加藤正先生をお招きし、車いすバスケットボールを体験しました。加藤先生は、車いすバスケットボールの競技経験はもちろん、冬季種目であるパラアイスホッケーの日本代表選手として5度のパラリンピック出場を果たし、メダル獲得も遂げている、トップアスリートとしての経験をお持ちの方です。

バスケットボールやラグビーなどで使用する車いすは日常生活で用いるものとは形状も性能も全く異なるため、まずは、「競技用車いす」の操作について勉強しました。車いすバスケットボールは通常のバスケットボール同様にトラベリング(ボールを持ったまま3歩以上歩いてはいけない)というルールがあります。車いすに乗った状態でドリブルを1度行うと2回車いすを漕がなければいけません。当然、片手で漕がなければいけない場面も出てくるため、ドリブルしながら前に進むことだけでもとても難しい動作になります。また、バスケットリングの高さは通常と同じため、車いす上



から放つシュートは、いつも以上に高く打たなければいけません。これもまた大変な動作になります。受講した学生は最初は四苦八苦していましたが、慣れてくるとドリブルも早くなり、シュートも何本も決めることができました。「自分で経験すること」を通じて興味を持ち、パラスポーツの世界にも興味をもっていってほしいと思います。

「松本圏障がい者スポーツ大会」に学生がボランティアスタッフとして参加

6月10日、信州スカイパークやまびこドームで行われた「松本圏障がい者スポーツ大会」に学生ボランティアスタッフとしてスポーツ健康



学科の学生が参加しました。この大会は、様々な障がいを持った方がスポーツを通じて楽しむことや健康につながることを目的に、開催されたものです。学生たちボランティアスタッフとしての体験のほかに、「すごいっ!」「おいしいっ」などといった優しい言葉がけや、気配りのある対応をしており、参加者たちのたくさんの笑顔につながっていました。テキストには載っていない経験を出来たのではないのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止されていた様々なイベントが少しずつ再開してきています。本学でもアウトキャンパス・スタディなど、本来学生に体験してほしいことを、学びにつなげていきたいと思います。

全国レベルのアスリートに関わる貴重な機会 スポーツ栄養を学ぶ学生が合宿に帯同し栄養サポートを実施

健康栄養学科 専任講師 長谷川 尋之

全国でも強豪校として名が知られている藤枝明成高校男子バスケットボール部への栄養サポートは、昨年度に続き2回目の実施となりました。本学からは、スポーツ栄養を学んでいる現役の学生、卒業生の総勢12名が、8月7日から5日間の合宿に帯同し栄養サポートにあたりました。伊那谷合宿のチームテーマである「和の拡大」になぞらえて、栄養サポートにおいても「調和・柔和」といった「和」をテーマに、合宿中に損失するものを補い、体調を整えるための栄養、厳しいトレー

ニングに安らぎを与える栄養をテーマに定めました。

合宿中は、学生が中心となり、身体計測、定期的な体重測定、脱水状態を測定するための尿比重測定、食事調査、食事で不足が想定されるタイミングや暑熱対策のための補食提供など、帯同しているからこそできる包括的なコンディショニングのための栄養サポートを実施しました。栄養サポートは、公認スポーツ栄養士の教員が事前にチームや関係者と計画を立て、合宿前には参加学生

に測定方法や記録用紙作成のレクチャー、専門的な栄養サポートの説明や講習会、合宿中の即時フィードバックなども実施しました。

昨年度の同合宿で学生リーダーを務め、現在は松本市内の病院で管理栄養士となった卒業生も参加し、合宿中の夜の時間を使って「短期トーナ



補食提供の様子

メントを勝ち抜くための栄養戦略」というテーマで、英語論文を参考にした内容を高校生向けにわかりやすく纏めなおした講義を実施しました。計画段階から綿密な打ち合わせを重ねており、こちらに掲載しきれないプログラムも多数あります。4泊5日という長丁場の合宿栄養サポートでしたが、本学の学生にとって、全国レベルのアスリートに関わることができる貴重な機会です。このような機会を多く作って、学生の学びと体験を展開できるように引き続き尽力してまいります。



身長測定の様子

研究室紹介

スポーツ健康学科 専任講師
吉田 陽平

優れた体育教員、 スポーツ指導者の育成を目指して

スポーツや学校体育の指導者(教師)には、学習者(児童・生徒)の動きを観察して適切なフィードバックをすることが求められます。ここでは、視覚で捉えた学習者の動きが、指導者の有する運動経験や知識

によって解釈されます。また、学習者の側からすると、習得しようとする未知な運動を、これまでの既知な運動経験と知識を集積させることで、習得しようとしています。これらの過程で大切になるのが、動きに対する正しい知識です。

私は、力学的・解剖学的に運動を捉えるスポーツバイオメ

カニクスという領域によって、スポーツや学校体育における身体動作を運動力学的に分析することで、運動学習において必要な科学的知見を得て指導現場に示唆を与えることを研究課題としています。専門としている種目は、アルペンスキーやスキー技術選といったスキーの滑走動作です。また、公立学校教諭の経験から、学校体育における教材の有効性の検討についても、スポーツバイオメカニクスの視点から研究を行なっています。

ゼミでは、学生が親しんできたスポーツを運動力学的に捉えたり、実際の動きを複数のカメラで撮影し、2次元動作解析や3次元動作解析の手法によって分析したりするを行なっています。スポーツの指導者や体育教員を目指す学生には、経験的な知識だけでなく、運動学的知識を背景として、学習者の運動を観察し指導に活かせるようになってもらいたいと考えています。

【経歴】高校卒業後、白馬やニュージーランドなどでスキーを中心に生活。信州大学大学院教育学研究科(教育学修士)を修了、長野県公立小学校勤務を経て現職
【研究テーマ】スキー滑走動作のバイオメカニクス
学校体育教材の開発・動作分析



理論と実践の往還のため
自らも滑り手であり続けている



地域連携活動

最近の活動から

株式会社 岩岳リゾートと松本大学松商短期大学部が産学連携協定を締結 金子ゼミの学生が考案した「おにぎり」が販売されます!

株式会社岩岳リゾートと松本大学松商短期大学部は地域社会に有益な人材育成をおこなうことを目的に、産学連携協定を締結しました。協定による取り組みの第一弾として、マーケティングを学ぶ金子ゼミの学生が提案したおにぎりを9月16日より販売されることになり、メ



ニューのお披露目会で学生たちが商品の紹介をしました。

金子ゼミでは2009年よりおにぎりのレシピ開発に取り組んでまいりました。これまでに完成した膨大な数のレシピをもとに、岩岳リゾートで味わっていただくにふさわしいおにぎりを学生たちが考え抜き、提案させていただきました。卒業生も含め、金子ゼミ全員で継続的に取り組んできた活動が形になり、販売に至ったことはうれしい限りです。このような機会をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。ぜひ、岩岳リゾートで絶景をお楽しみいただき、おいしいおにぎりを召し上がってください!!(松商短期大学部商学科 教授 金子 能呼)



読売旅行との産学連携企画「秋の安曇野・松本堪能ツアー」が販売!

5月より観光ホスピタリティ学科の3つのゼミが合同で、読売旅行との産学連携企画を進めてきましたが、この度いよいよ、長野県を目的地とする学生発案のツアー企画が完成しました。ツアーは読売旅行主催で、10月27日のみ催行の日帰りバスツアー「松本大学生との共同特別企画!おもてなしが詰まった秋の安曇野・松本堪能!」です。

当ツアーは企画した学生から、「秋色の松本・安曇野〜わたしたちの秋、あつめました。」と題して発表されました。地元出身の学生らにとって、身近で魅力のある安曇野の自然と松本の街のよりすぐりを、旅行者の皆様へ学生手作りのおもてなしで存分に楽しんでいただきたい、そんな想いがこもっている一期一会の企画です。ご参加おまちしています。

(観光ホスピタリティ学科 准教授 中澤 朋代)

本ツアーならではのポイントは、以下の通りです(読売旅行ホームページより)。

- ★学生が丹精込めて作成したオリジナルMAP付!当ツアーでしか手に入りません!
- ★松本大学生必死の交渉で実現!行列がたえない人気店「そば処せきや」で、自慢の「十割そば」、「天ぷら」の他、ご当地グルメ「山賊焼き」、本年4月に開催されたG7外相会合の夕食会にも振る舞われ、長野県ブランドとして知られる「信州サーモン」のお刺身など、本ツアー限定メニューでのご用意。団体では当ツアーでしか入る事ができません!先着25名様限定!
- ★開設65周年。日本近代彫刻の礎を築いた安曇野出身、荻原守衛(碌山)の彫刻作品を展示する碌山(ろくざん)美術館を学芸員付で見学。紅葉と建物との美しいコントラストも堪能
- ★八面大王足湯体験も!穂高温泉郷の天然温泉を堪能できる人気スポット。隣接する直売所でお買物もどうぞ。
- ★日本アルプスワインバレーに位置する安曇野ワイナリーにて、自慢のワイン&飲むヨーグルトの試飲とお買物
- ★山麓線からの喉かな風景も車窓よりお楽しみ!
- ★ゆっくり出発・早めのお帰り行程。ゆったりとした行程でお楽しみ。



最終選考に残った企画の磨き上げには、36名全員が関わりました



▶お申込み・詳細は、
読売旅行のホームページ
よりご確認ください。



域内好循環につながる「周遊プラン」を松本広域連合と協働で検討

今年4月より、総合経営学科1年生基礎ゼミの岡崎クラスでは、松本広域連合と「周遊プラン」の作成に取り組んでいます。松本広域連合は、松本市・塩尻市・安曇野市・朝日村・山形村・筑北村・生坂村・麻績村(3市5村)の行政機関から成る組織で、今回の事業の目的は、主に県外からの訪問客をこの地域に呼び込み、域内を周遊してもらうことで社会経済の発展に繋げることにあります。一度限りの週末の周遊で終わるのではなく、その後リピーターとして何回も訪れる、あるいは移住も検討するという、実質的な域内好循環を生むべく重要な事業策定を担っ

ており、学生一人一人が若い世代の視点で知恵を絞り出し、情報収集や実地調査を行ってきました。こうした活動の中で、関連の事業者様から多くの現場の意見も聞き、経営における課題を肌で学んでいます。「私たちは地元地域にどのような貢献ができるのか」を常に意識しながら周遊プランを作成し、8月10日には広域連合庁舎(松本市波田)で各市村の担当者に対する中間報告を終えました。10月27日には各市村の首長に対して最後発



朝日村「クラフト体験館」での実地調査の様子

表を行い、来年度からの周遊パンフレットに反映する予定です。

(総合経営学科 専任講師 岡崎 滋樹)

地域づくり考房「ゆめ」

スマホ講座をきっかけに広がる地域交流

地域づくり考房「ゆめ」では、学生が夏休みを利用して行う地域のお年寄り向けのスマホ講座を開催しました。新村公民館を会場に8月から9月にかけてほぼ毎週開催しましたが、地域でも話題となり毎回10数



名の方々に参加しました。指導は観光ホスピタリティ学科2年の鍵田輝君が中心となり、他の学生もサポートに入りながら個別指導を中心に進めました。参加したお年寄りは、機種も、レベルも、悩みも、一人一人みんな違います。「企業や行政が行うスマホ講座は盛りだくさんでついていけない」そんなお年寄りの声を聞きながら、『ゆめ』の学生たちは、進度を気にせずじっくりと一人一人の目線に立って、納得するまで応じて進めていきました。時には、話題がスマホの質問から家庭の話まで広がることもあり会話を楽しんでいる姿も見られました。参加した学生はスマホをきっかけに相手の気持ちを理解しながらコミュニケーションをとる素晴らしい経験を積むことができました。多くの地域の方々から、夏休み期間中だけでなくこれからも講座を継続して欲しいとの声も上がりました。学生たちは、この取り組みをさらに広げようと再び企画を練っています。(地域づくり考房「ゆめ」専門員 大野 整)

地域健康支援ステーション

「TAGFITNESS®」を動画で全国に発信 健康経営バーチャルイベントに参加

9月22日、23日に開催された大塚製薬株式会社主催の「第1回健康経営バーチャルイベントby健康社長」に参加いたしました。健康経営に取り組んでいる自治体や企業、団体の事例を仮想空間にて視聴することのできる新しいイベントで、企業経営者をはじめとした健康経営に係わる多くの方、またこれから就職先を決めていく学生などの参加がありました。

地域健康支援ステーションが現在推進している事業のひとつであ



動画は、本学HPからもご覧いただけます。

る「TAGFITNESS」について動画でご紹介をしました。全国から集まった多くの方に、松本大学をはじめ「TAGFITNESS」を知っていただく大変貴重な機会となったと思います。

(地域健康支援ステーション 健康運動指導士 水野 綾子)

～握力の重要性について～

地域健康支援ステーションが提供しているTAGFITNESSでは、様々な専門機器を使用して体力測定を実施しています。その中で今回は、「握力」についてご紹介します。握力は簡便で安全に測定ができることから筋力の指標として用いられており、主に上肢の筋力は、下肢やその他多くの部位の筋力と相関関係が高いことから全身の筋力の指標とも言われています。

握力は男女ともに30歳代でピークを迎え、その後は加齢に伴い低下する傾向にあります。握力が低下すると、物を握りにくくなったりペットボトルの蓋が開けづらくなったりします。また近年の研究から、経年低下が大きいほど総死亡リスクが有意に上昇するということが明らかになっています。筋力維持のため定期的な測定をしたり、手のグーパー運動だけでも握力は向うしますので、ちょっとした時間に取り入れてみてはいかがでしょうか。

(地域健康支援ステーション 健康運動指導士 小澤 菜々子)



学科の特性に応じた初年次教育プログラム

大学・短大での学びや学生生活は、高校までとは全く異なります。本学では、入学後、専門教育への橋渡しになるような学部・学科の特性に応じた初年次教育を実施しています。その一部をご紹介します。

健康栄養学科

管理栄養士が活躍している現場を訪問 信州ミルクランドで「品質管理」について学ぶ

健康栄養学科長 教授 高木 勝広
健康栄養学科 助手 塩谷 一紗

8月8日、健康栄養学科1年生の16名が信州ミルクランドでアーリー・エクスポージャー(早期体験学習)を実施しました。アーリー・エクスポージャーとは、入学後のできるだけ早い段階で、学生の将来の就職先と考えられるいくつかの分野(医療、福祉、行政、教育、食品等)の現場を訪問し、管理栄養士をはじめ専門職で働く方々との交流を通して、学生の学修に対するモチベーションを高めることを目的とした本学独自のプログラムです。



ラムです。

信州ミルクランドは、牛乳やヨーグルトなどの乳製品 約120製品を供給しており、長野県内の学校用給食牛乳も生産している会社です。最近では、ファミリーマートブランドの牛乳も信州ミルクランドから供給されています。今回は、安心・安全な製品を出荷する上で重要な「品質検査」についてご紹介いただきました。

まず、品質検査の概要をはじめとした全体ガイダンスの後、検査室の見学と品質検査の詳細に関する講話を拝聴しました。

次に、検査室の見学では、検査で使用する器具や装置について説明していただきました。実際に顕微鏡を使って行う検査の一部も見せていただき、顕微鏡で観察できたものについて質問をしている学生がいました。



検査室の見学の最後には、牛乳・乳飲料・無脂肪牛乳の飲み比べができ、それぞれの味の違いを感じることができたようでした。

最後の講話では、品質検査に関わる細菌やその検査方法についてお話しいただきました。検査を実施するためには、微生物の知識はとても重要なものとなります。管理栄養士を目指すなかで学んだ微生物や食品衛生についての知識は、品質検査の場にも活かすことができるため、自身の得意分野を見極めながらこの先も学んでほしいとの言葉をいただきました。

1年生も前期が終了し、これから専門的な講義が多くなっていきますが、将来の選択肢が一つでも増える機会となれば幸いです。

松商短期大学部

短大での学びや将来をイメージし今後の学修につなげて 今年度より必修科目として開講した「短大教育と地域社会」

松商短期大学部 学部長
浜崎 央

2023年度より松商短期大学部では1年生を対象とした前期必修科目「短大教育と地域社会」を開講しました。この授業は、自分たちが通う松商短大がどのような短大かを理解し、卒業までに何を学び、卒業後はどうしていくかを考えることを目的としています。授業の中の取り組みの1つとして、本学

の卒業生を多く採用していただいている企業様へのアウトキャンパス・スタディを、キャリアセンターの協力のもと、本学の教育企画推進経費を利用して実施しました。8月28日～9月1日の間に、ゼミごとにそれぞれの企業へ訪問し、企業説明や社内見学を始め、卒業生の先輩社員によるパネルディスカッ

ションやグループワークなどを体験してきました。学生は、自分の将来像を先輩社員に重ねてみることで、短大の2年間の中で何を学び、将来どうするかといったイメージがつかめたのではないかと感じています。今後、学びや就職活動への意識が高まることを期待しています。



株式会社大和



株式会社マルニシ



株式会社ロイヤルオートサービス

学生が考案した「健康づくり応援弁当」 大好評で完売！

健康栄養学科 准教授 平田 治美

国家資格である管理栄養士資格取得を目指す健康栄養学科では、「公衆栄養学臨



地実習」があります。履修学生は、保健所および保健センターでインターンシップ実習として45時間の実習機会をいただき学修します。長野県は県民の健康や食生活の課題をふまえ「食塩控えめ、野菜たっぷり」など健康に配慮した食事が、外食や中食でも選択できるように、健康づくり県民運動「信州ACEプロジェクト」の一環として、6つの基準を満たした「健康づくり応援弁当」の普及を図っています。実習先の一つである北信保健福祉事務所(保



健所)で、学生と「新鮮屋オタギリ」とコラボレーションして「信州なかのナゲットのり弁当」を考案から店頭販売PR活動まで行いました。地域特産のえのきや郷土料理の「やたら」とひき肉を合わせたメイン料理に、春雨のカレー炒め、3色ピーマンマリネなど、彩りよくさっぱりとした味付けで646円(税込)です。たいへん好評で用意した70食は完売でした。

「防災活動論」の授業の一環として、新村地区との合同避難訓練を実施

地域防災科学研究所・観光ホスピタリティ学科 教授 入江 さやか

7月7日に実施された新村保育園・地域合同避難訓練に、「防災活動論」の授業を履修している学生32人が参加しました。この訓練は、新村地区の住民でつくる「あたらしの



郷協議会安全安心部会」が、地域防災力の向上のために毎年実施しているものです。平日の昼間、大地震が発生したという想定のもと、大学に近い新村保育園のすべての園児を、保育園の職員や安全安心部会の住民のみならずと協力しながら、避難場所に指定されている松本大学の多目的グラウンドまで誘導しました。学生は園児と手をつなぎ、避難ルートに危険がないか確認しながら徒歩で避難誘導を行いました。大学の多目的グラウンドに集合したのち、再び園児を誘導して保育園に戻りました。

訓練の後半は、学生が園児向けの「防災授業」を行いました。「じしんダンゴムシ体操」や、災害に関するクイズなどを通じて、地震などの災害が起きたときにどのようにして身を守ればいいのか、わかりやすく伝えました。訓練後、参加した学生からは「保育園が大学の近くにあるということは知っていたけれど、関わることはないと思っていた。もし地震が起きて避難しなければいけなくなった時には力になりたい、助けたいと強く感じた。自分自身の命を守るための避難訓練はたくさんやったことがあるけれど、誰かのために一緒に避難するという経験はしたことがなかったのでもとても良い学びになった」などの感想が寄せられ、地域の人々と協働して行う防災活動は学生の貴重な経験と気づきの機会となっています。

教育学部4年生有志が 「入山辺地区通学合宿」に参加

学校教育学科 准教授 松原 好広

8月31日から9月2日の3日間、教育学部の4年生有志が、「入山辺地区通学合宿」に参加しました。通学合宿は、入山辺地区に住む小学校4年生から6年生が、共同で生活体験をするものです。大学では、教員になるための学修をしていますが、教員になった後の実践的な体験はなかなかできま

せん。通学合宿に参加し子どもたちと生活をともに過ごすことで、臨機応変に対応できるようになります。学生たちは、事前の準備、毎朝の出迎え、宿題の指導など、あらゆる場面で子どもたちと関わっていました。この夏、入山辺地



区の小学生だけでなく、学生たちにとっても、思い出に残る活動になりました。

4年ぶりに体育館で行われた 合同企業説明会に57社の企業が参加

キャリアセンター 課長 中村 礼二

7月14日に、本学の第一体育館で学部4年生と短大2年生を対象とした合同企業説明会を実施しました。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、合同企業説明会をオンラインで実施してきたこともあり、今回のように50社以上の企業が一堂に会し、対面で実施するのは4年ぶりのことでした。売手市場といわれているなかで、学生の確保に苦戦している企業も多く、参加企業からはこの時期の開催に感謝する声が多数寄せられました。学生にとっても、たくさんの求人情報のなかから業種や職種を絞りきれ

ず、就職活動が停滞している学生もいることから、様々な企業から話を聞き、仕事内容について知ることのできることも貴重な機会となったのではないかと感じています。半日という限られた時間のなかでしたが、時間いっぱいまで採用担当者の話に耳を傾けている学生もあり、参加企業・学生からは、今回の開催に関して概ね高い評価をいただきました。今後も、地元企業



や学生の要望を取り入れながら、引き続き学生の就職支援に努めていきます。

社歴100年を超える松本市老舗企業の経営者と 意見交換会を開催

大学院総合経営研究科・総合経営学科 教授 兼村 智也

総合経営学科兼村ゼミ3年生8名は、4月の岡谷市企業に引き続き(蒼穹151号掲載)、7月13日に松本市内の企業3社(株式会社巴屋、株式会社村瀬組、旅館すぎもと)の経営

者の方々と意見交換する機会をもちました。学生が地域企業に求めるもの、逆に地域企業が彼らに求めるものを率直に語り合うことによって、今後の就職・採用活動につなげていってもらおうとするものです。

意見交換会のなかでは、学生が「ワークライフバランス」を重視する意見を述べると、経営者側から有給休暇や定時退社(残業なし)は与えられるものではなく自分でつくるものといったコメントが、また学生が「雰囲気の良い会社」を求めると、それをよくするのは従

業員自身であることなどのやりとりが行われました。今回ご参加いただいた企業はいずれも社歴100年を超える企業です。これまで多くの従業員と向き合ってきたこともあって、学生たちにもわかりやすくご対応いただきました。

意見交換会を終え、参加した経営者の方から、こうした場をより多くの松本市内の企業にも広げてほしいとのご要望をいただきました。大学側もこうした地域企業との連携を望んでおり、今回、企業のご紹介をいただきました松本商工会議所様には引き続き、ご支援・ご協力いただければと思っております。



金融機関内定者を中心に17名が 「証券外務員」の資格取得をめざし集中講義を受講

松商短期大学部 経営情報学科
教授 飯塚 徹

松商短期大学部では、夏季休暇中の8月17日、18日に、「金融スペシャリスト・プログラム」として、金融機関内定者を中心に17名に対し「証券実務」の集中講義を実施しました。この講義は、「証券外務員」の資格を取得するためのものです。証券外務員とは、金融機関で金融商品取引業務を行います。この証券外務員になるためには、日本証券業協会の行う試験に合格しなければなりません。金融商品を販売する全ての金融機関でこの資格取得が求められます。比較的難易度が低い二種試験と、難しいオプション取り引き

やデリバティブ取り引きが出題される一種試験がありますが、本講義は一種試験の対策講座です。

入行・入庫後に必須となり、新入研修でも行われる札勘(お札の勘定)の練習を、元銀行員の教員の指導のもと行いました。模擬紙幣100枚を「縦読み」という方法でかぞえます。学生は、はじめての経験で、なかなかうまくかぞえられませんが、コツを教えるとすぐに上達しました。初日に、少しコツを覚えた学生達は、自宅でも練習し、家族に披露したそうです。2日目の札勘練習では、多く



の学生が上達し、練習の成果がみられました。

2日間で証券外務員対策の学習を集中的に行うことができ、あわせて札勘練習で来春から金融機関で働く意識を高められ、充実した集中講義となりました。

専門性を身につけ、多様な教育現場に対応できる教員をめざして

本学では、教育実習をはじめ、実践から学ぶ学修を多く取り入れており、学生たちも多岐にわたる内容の授業や実習に意欲的に取り組んでいます。今回、養護学校の生徒さんが学校見学で来学し、教育学部の特別支援学校教諭をめざす学生有志と一緒に施設見学や学食を体験しました。学生たちは養護学校の生徒さんと交流を深めることができ、貴重な機会となりました。当日の様子についてご紹介します。

教育学部教職支援室 専門員 矢野口 仁

松本養護学校ひまわり部生との交流会

6月30日に松本養護学校ひまわり部(重度重複学級)の生徒さんと教育学部で特別

支援学校教諭免許状の取得を目指す学生有志との交流会が行われました。ひまわり部の皆さんは社会見学で本学に立ち寄られ、学生と一緒に食堂で昼食を食べた後、樋口一宗教授手作りのランプ(投球用斜面)でポッチャ交流戦をしたり、パラシュートをしたりして交流を深めました。学生たちは、交流会の前後にも移動の際に車椅子を押したり、沢山の荷物を運んだり、また、食事の際に保護者がミキ



サー食を作る様子を見学したりすることができ、とても貴重な機会となりました。松本養護学校の先生からも、「校外で自分たちの年代に近い方との交流は得難いひとときだった」とお喜びの言葉をいただき、今後の継続が期待されました。

飯田養護学校小学部6年生との交流

7月5日に飯田養護学校小学部6学年の児童と先生方16名が、修学旅行で本学に

立ち寄られ、食堂で昼食を食べながら教育学部の学生と交流しました。食べたいものを自分で注文して会計するのも勉強の一つ。事前に、メニューの写真に合わせて、学生の協力を得ながら食堂での一連の流れをビデオで撮影し生徒の皆さんに送りました。その成果が出たのか、当日はスムーズに注文と会計を済ませ、学生達と楽しく食事をすることができました。引率された先生方の中にはこの春



に教育学部を卒業した朝日優奈先生もいて、教師として児童を引率する頼もしい姿を後輩に見せてくれました。

今後もこのような施設設備等を利用して地域の学校とのつながりを大切にしていきたいです。

「学校見学」随時受付中です

本学では、オープンキャンパス以外でも学校見学を随時受け入れております。進路講話やミニ講義での座学、学食体験、マツナビ(松本大学キャンパスナビゲーター)による学生からの施設紹介など、様々な場面から大学の日常風景を見ることができます。2023年度は4月から9月末まで、20校の高等学校にお越しいただきました。7月には松商学園高等学校商業科が3日間にわたり約340名が見学に来ました。大学の雰囲気を感じたり、今後の進路選択に役立てていただければ幸いです。お問合せ・お申込みは本学HPにてご確認ください。



久しぶりに対面で開催された短大フォーラムに参加

9月12日、13日に、大妻女子大学短期大学部にて行われた第8回短大フォーラムに、松商短期大学部の学生11名と教員4名で参加してきました。「短大間連携を進めるために短大の魅力が詰まった授業を考える」をテーマとして、東京、石川、岐阜、愛知、京都、福岡から集まってきた学生や教職員と少人数グループになって議論し、発表でアイデアをぶつけ合い

ました。初めて会う人たちと議論してそれをまとめていくというのはそんなに簡単ではなかったかもしれませんが、参加した学生たちは達成感を得るとともに、何かしら自身の成長を感じたようでした。

コロナ禍による数年のオンライン開催を経て、久しぶりの対面開催となり、とても充実した短大フォーラムへの参加となりました。

(松商短期大学部 商学科長 教授 川島 均)



断家の三遊亭神楽さんが落語を披露

国語科概論では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の三領域の学びの在り方について概観してきました。残りの回では、「我が国の言語文化に関する事項」の「伝統的な言語文化」に焦点を当てていきます。今回は、その導入として、断家の三遊亭神楽さんをお呼びして、落語の形成過程や歴史、しぐさや話し方の解説をしていただいた後、「皿屋敷一」（お菊の皿）を演じていただきました。三遊亭神楽さんは、5代目三遊亭圓楽さんの23番目のお弟子さんで、2007年に真打になられております。

講義室の特設ステージにて、間近で本物のわざに触れることのできた



学生たちは、本当に良い経験ができました。神楽さんの話し方や仕草から私は笑いが止まらず、涙が出てきました。伝統的な言語文化の学習においては「親しむ」ことが重視されている。学生たちは「親しむ」とはどのようなことかについて、三遊亭さんの実演をきっかけに考えることができました。

(学校教育学科 専任講師 上月 康弘)

本学では他にも次のような出来事がありました。

●8月26日、27日の2日間にわたり、本学を会場に松本大学防災士養成研修講座を開催し、65名が受講しました。

仲間と共に教員採用試験合格をめざして学生有志が自主学習会を実施

教職を目指す教育学部の4年生は、有志で「松大アカデミー～有志のつどい～」という会を立ち上げました。この松大アカデミーでは、教員採用試験の合格に向けて自主学習会を開いています。4月以降に行っている毎週の学習会では準備段階から仲間と相談しながら、皆が活動を作り上げる企画・運営者であるという意識を持って取り組んでいることで、全員が大きな手応えと喜びを感じています。学生からは、「教員になりたいという熱い思いをもち、自ら集まった仲間なので、志が高く、刺激になる」[毎回、学びの多い学習会



教員採用試験の前には決起集会を行いました

で、自分自身の課題が明確になるのが嬉しい」「お互いの良さや課題を伝え合う中で、自分自身を見つめることができた」「一緒に頑張る仲間がいて、心強い。みんなで合格したい」

このような思いをもち、仲間と共に、さらに自分を磨いていこうとしています。(教育学部教職支援センター長 教授 樋口 一宗)

本学の取り組みをアール医療専門職大学関係者が視察のため訪問

9月13日、茨城県にある学校法人筑波学園・アール医療専門職大学リハビリテーション学部をはじめ一般財団法人日本開発構想研究所研究員の方々5名が本学の取り組みを参考にしたいと視察にいらっしゃいました。国際交流センターの運営や、配慮が必要な学生への支援働きかけ、基礎教育センターの運営、地域健康支援ステーションについての説明の後、出

張型体力測定車などの施設見学もされました。活発な意見交換も行われ、本学の取り組みを実際に見ていただく貴重な機会となりました。



2023年度外部評価委員会を開催

9月5日、松本大学では、大学・教育行政・自治体・企業・高校関係者7名の外部評価委員を迎え、2023年度の外部評価委員会を開催しました。大学の取り組みや2022年度事業報告、2023年度事業計画の説明を行い、各種アンケートの分析結果を報告し意見交換を行いました。

また、松商短期大学部は、大学・高校関係者・同窓会・地域企業の方々

名から構成される委員を迎え、9月14日に開催しました。短大の現況や各委員会からの報告を行い、大学同様に各種アンケートの分析結果を報告し、点検・評価していただきました。大学・短大ともに学友会の学生も評価委員として参加しました。社会的立場の異なる委員の方々から幅広いご助言をいただくことができ、今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。

「藤岡由美子先生を偲ぶ会」を執り行いました



8月6日、去る5月13日に逝去された健康栄養学科准教授の藤岡由美子先生を偲ぶ会が、本学524教室で開催されました。当日は、在校生、卒業生、教職員、近隣の方など藤岡先生とご縁のあったたくさんの方々にご参集いただきました。

黙祷の後、先生のご略歴を紹介し、献花を行いました。献花が行われる間は、ゼミ活動などで撮られた思い出の写真を、先生が好きだった曲に乗せて、スライドショーで振り返りました。また、藤岡先生が作成されたDVD教材(臨床栄養学実習)を上映しました。

続いて前学長の住吉廣行氏、元教員の中島美千代氏、教子代表として藤岡ゼミ一期生の福岡歩

美氏(現健康栄養学科助手)より感謝の言葉をいただき、藤岡先生の前向きなお人柄や、教育に対する情熱などについて語られました。ご遺族の方からは、病気がわかってから以降弱音は口にせず、最期の最後まで教育を気にかけて、いつもパソコンに向かっていたなどの様子が伝えられました。

藤岡先生が亡くなられたことが実感できず、偲ぶ会を迎えましたが、会場に飾られた写真、献花、皆さんの話を伺う中でようやく心の整理ができ、お別れができたように感じました。藤岡先生、本当にお疲れ様でした。どうぞ安らかにお休みください。

(実行委員長・健康栄養学科長 教授 高木 勝広)

クラブ活動情報

硬式野球部

■関甲新学生野球連盟 秋季1部リーグ戦【日程と速報】

節	月	日	曜	対戦カード	会場
第1節	9	2	土	常盤大学 0 - 7 松本大学	白鷲大学野球場
第2節	9	3	日	山梨学院大学 7 - 3 松本大学	山梨学院大学川田野球場
第3節	9	9	土	松本大学 11 - 1 新潟医療福祉大学	上武大学野球場
第4節	9	10	日	松本大学 6 - 7x 上武大学	上武大学野球場
第5節	9	16	土	松本大学 4 - 3 作新学院大学	平成国際大学野球場
第6節	9	17	日	松本大学 1 - 2x 平成国際大学	平成国際大学野球場
第9節	9	30	土	松本大学 - 関東学園大学	上武大学野球場
第7節	10	1	日	松本大学 - 白鷲大学	白鷲大学野球場
第8節	10	7	土	松本大学 - 新潟大学	松本大学野球場

※本学は、9月17日時点で5位。

男子サッカー部

■北信越大学サッカーリーグ戦1部 前期リーグ戦【試合結果】

順位	大学名	新潟医療	松本大学	新潟経営	北陸大学	新潟産業	金沢学院	金沢星稜	新潟大学	勝	分	負
1	新潟医療	○	○ 3-0	△ 0-0	○ 4-1	○ 3-0 ○ 4-0	○ 5-0	○ 4-0	○ 7-0 ○ 5-0	8	0	1
2	松本大学	● 0-3	○	△ 2-2	● 1-3	○ 4-1	○ 3-1 ○ 5-1	○ 3-0 ○ 2-1	○ 10-1	6	2	1
3	新潟経営	△ 0-0	△ 2-2	○	○ 5-1	○ 4-2	● 0-1 ● 1-2	○ 2-1 ○ 2-0	○ 6-1	5	2	2
4	北陸大学	● 1-4	○ 3-1	● 1-5	○	○ 2-1 ● 1-4	○ 2-1	△ 1-1	○ 4-0 △ 1-1	4	3	2
5	新潟産業	● 0-3 ○ 0-4	● 1-4	● 2-4	● 1-2 ○ 4-1	○	○ 1-0	△ 2-2	○ 4-1	3	5	1
6	金沢学院	● 0-5	● 1-3 ● 1-5	○ 1-0 ○ 2-1	● 1-2	● 0-1	○	● 1-4	○ 5-0	3	6	0
7	金沢星稜	● 0-4	● 0-3 ● 1-2	○ 1-2 ○ 0-2	△ 1-1	△ 2-2	○ 4-1	○	△ 2-2	1	5	3
8	新潟大学	● 0-7 ○ 0-5	● 1-10	● 1-6	● 0-4 △ 1-1	● 1-4	● 0-5	△ 2-2	○	0	7	2

■北信越大学サッカーリーグ戦1部 後期リーグ戦【日程】

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	9	16	土	金沢学院大学 1 - 5 松本大学	10:00	金沢学院大学グリーンフィールドII
第2節	9	23	土	金沢星稜大学 1 - 2 松本大学	10:30	石川県サッカー場
第3節	9	30	土	松本大学 - 新潟産業大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第4節	10	7	土	松本大学 - 新潟大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第5節	10	15	日	北陸大学 - 松本大学	11:00	北陸大学フットボールパーク
第6節	10	22	日	新潟医療福祉大学 - 松本大学	10:00	新潟聖籠スポーツセンターE
第7節	10	28	土	松本大学 - 新潟経営大学	10:00	松商学園総合グラウンド

※本学は、後期第2節終了時点で2位。

テコンドー部

創部以来初！全日本選手権へ3名が出場権を獲得

9月9日、10日に山梨県の小瀬スポーツ公園武道館で第17回全日本学生テコンドー選手権大会が開催されました。結果は以下の通りです。

【男子有級プムセ】優勝／曾根原 俊(健康栄養学科3年)、準優勝／小林 優太(総合経営学科3年)

【キョルギ】女子-46kg級 3位／小野里 帆純(松商短期大学部2年)、男子-80kg級 3位／井内 優介(教育学部4年)

女子ソフトボール部

■主な大会結果

◇第38回東日本大学女子ソフトボール選手権大会
(7月8日～10日／山梨県・長坂総合スポーツ公園)
1回戦 ● **松本大学** 4 - 8 東京女子体育大学 ○



8月から3年生を中心とした新体制で日々練習に取り組んでいます。今後ともご声援をよろしくお願いいたします。

陸上競技部

2名の選手が日本インカレで健闘！！

9月14日～17日に埼玉県熊谷市で開催された、第92回天皇賜杯日本学生陸上競技対校選手権大会に、陸上競技部の石坂真海(スポーツ健康学科4年)と田中愛(スポーツ健康学科4年)が出場しました。石坂は十種競技に出場し、6732点で10位とランキングよりも上位の結果を残しました。田中は棒高跳に出場し、結果としては記録無しでしたが、自己ベストよりも高く始まるハイレベルな試合で、惜しい跳躍を見せました。また、松本から多くの部員が応援に駆け付け、全員が一丸となって選手達を鼓舞してくれました。大学陸上最高峰の舞台で得た経験が、部員達の今後の競技観を作り上げていくことを信じてやみません。来年は今年を超える出場者と結果を残せるように取り組んでいきたいと思っておりますので、応援のほどよろしくお願いいたします。(陸上競技部 副部長 村中 智彦)



4年ぶりに制限なしのオープンキャンパス 延べ1,589名が来場

4月より開催してきた今年度オープンキャンパスは、4年ぶりに制限することなく全日程を無事に実施することができました。オープンキャンパスでは本学の学びの特徴、雰囲気などを学科説明や講義体験、施設見学や先輩学生との交流を通じて知っていただき高校生たちの進路選択の助けになるよう心掛けています。2023年度は、延べ1,589名にご参加いただき、新しいプログラムとして保護者の大学進学への不安や入試の疑問を解消していただくために、保護者向け説明会も開催しました。コロナ禍の影響により、これまで様々な制限を設けてきましたが、7・8月の開催では、地方シャトルバスの運

行や無料学食ランチ体験を復活させ大盛況でした。

このような充実したプログラムを実施することができたのは、運営部隊である松本大学キャンパスナビゲーター「マツナビ」の尽力のおかげです。コロナ禍で様々な制限がある中、少ない人数で来場者のためにできることを模索し、工夫を重ねオープンキャンパスを運営してくれました。これからもマツナビと協力し学生募集の充実に取り組んでまいります。最後となりますが、多数のご参加ありがとうございました。



今年是一般公開します

『第57回 梓乃森祭』

【開催日】一般公開 10/14^土 10/15^日

【テーマ】POPCORN

これまでの思いを全力で開放して、
みんなで思いっきりハジけましょう!!

■アーティストライブ

【出演】『ヤバイTシャツ屋さん』

10月14日(土) OPEN 15:30 START 16:30 / 第一体育館

※チケット事前販売

■お笑いライブ 【出演】ぺこぱ、ラバーガール、TAIGA

10月15日(日) 11:30~ / 松本大学野外ステージ

■プロジェクションマッピング 10月15日(日) 19:00~

■花火大会 10月15日(日) 19:10~



その他イベント・展示を予定しております。
詳細は梓乃森祭特設サイトをご確認ください。



※梓乃森祭に併せて松本大学同窓会主催による「ホームカミングデー」が開催されます。卒業生の方は、ご来場の際に受付で「商品引き換えクーポン券」をお渡しします。また、豪華景品が当たる抽選会も予定されていますので、卒業生はぜひご参加ください。詳細は、松本大学同窓会HPにてご確認ください。

2023年度

「松本大学防災士養成研修講座」 のお知らせ

【開催日】

12/16^土 12/17^日

【申込期間】10月2日(月)~11月10日(金)

※定員になり次第締め切り

【会場】松本大学5号館

【資格取得試験】12月17日(日)

講義終了後、16時40分~

詳細はこちらを
ご確認ください



松本大学は長野県唯一の防災士養成研修講座認定機関として、NPO法人日本防災士機構の認定を受けており、講座終了後は防災士資格取得試験の受験資格が得られます。

お問合せ先 松本大学防災士講座事務局 0263-48-7396

第2回松本大学健康首都会議を開催

健康ライフの知恵を増やそう! ~更なる脳活・筋活・骨活・腸活に向けて~

【開催日】

11/11^土 11/12^日

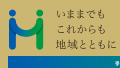
【会場】

松本大学 ※参加無料



今回は「健康ライフの知恵を増やそう!」をテーマに、第2回松本大学健康首都会議を開催します。初日には、精神科医で京都ヘルメス研究所長・京都大学名誉教授・医学博士の山中康裕氏を講師にお迎えし基調講演を行います。そのほか、本学教員・学生や地域の健康関連企業・団体の皆さんによる健康にかかわる講座を開催したり、体験教室や様々なブース出展も予定しています。お申込み・詳細は、松本大学HP・新聞記事等で発表します。

教育拡充募金のお願い



いまでも
これからも
地域とともに

松本大学松商短期大学部開学 70周年
松本大学開学 20周年
松本大学大学院開設 10周年

※松商短期大学部

募金の方法については
こちらから



学校法人松商学園は、これまでに学園全体で延べ6万人を超える有為な人材を社会に送り出し、2023年度には学園創立125周年を迎えています。また、松本大学松商短期大学部開学70周年、松本大学開学20周年、松本大学大学院開設10周年の合同記念事業として

位置づけ、学生たちによってよりよい教育環境を整えるために教育拡充募金を進めさせていただいております。この歴史と伝統のうえに、未来に向けて新たな発展の足跡を残し記念事業を推進するために、皆さま方の温かいご支援ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

編集後記

つながる、2万人の地域力。

松商短大70年、松本大学20年、大学院10年の歴史の中で、現在、約2万人の卒業生がそれぞれ地域社会で活躍を続けています。そして、この卒業生の輪はこれからも繋がりが広がり続け、「まちづくり」「健康づくり」「ひとづくり」の担い手として、地域を動かす大きな力となるでしょう。

私たちの目標が「地域でしっかり育て、地域に還すこと」だとすると、未来のこの地の原動力をしっかり確保していくことも同じように大切です。

厳しい残暑も落ち着き、季節は秋へ。さあ、今年も入試が始まります!

(記・入試広報室長 坂内 浩三)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp

